

令和八年度

高等学校入学者選抜学力検査問題

国語

注意事項

- 一 問題は、一ページから七ページまであります。
- 二 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。

— 次の文章には、陸上部に所属する中学二年生の山根朝佳が、病院で診察を受けたときのことと、それ以降のことが書かれている。この文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(15点)

「——うん、だいぶよくなったね。もうそれほど、日常生活にも支障ないかもしれないね。」カーテンが引かれた処置室で、ごま塩頭の関本先生が朝佳の足首を見る。今日は母に付き添ってもらって、かかりつけのせいけい外科である関本医院に来ていた。

「ありがとうございます。ここまで治ってほっとしました。」朝佳の笑顔に、関本先生は「ふむ。」と、まだらなあごひげに手をやった。「山根さん、なんだか表情も明るくなったんじゃない？」陸上を始めてから、ちよつとした故障や不調のときには必ず関本医院に来ていた。長く付き合いがある先生だから、ささいなことも見逃さないで話題にしてくれるのだ。朝佳は先生の言葉に、はにかんだ。

「最近、ひよんなことからラジオをよく聴いていて。同じ番組を聴いている子と、仲良くなったんです。」関本先生が「へえー！」と大げさな身振りで驚く。「ラジオかあ、懐かしいねえ。中学生で聴いている子は珍しいんじゃない？ 僕は学生時代によく聴いていたんだけど、それだけじゃ物足りなくなつて、自分たちで放送部を結成して、医学部の仲間たちとパーソナリティの真似事までやっていたよ。」

「ご自分で、トークをされていたんですか？ たしかに、私たちの世代って、いまの子よりもラジオをよく聴いていましたよね。」関本先生の話題に、母が乗る。朝佳は二人が和気あいあいとラジオ談義する姿を横目で見ながら、胸が静かに熱くなるのを感じた。(先生、私と同じだ。ラジオを聴いているだけじゃ飽き足らなくて、自分でしゃべり始めたんだなんて。)

足を傷めてから、どうにも元気が出なかった。でも、久しぶりにわく

わくしている。

帰り道、助手席の車窓から雨上がりの空が見えた。灰色の雲が風によつてちぎれ、ゆつくりとした速度で動く。止まっていた朝佳の時間も、一緒に動き出した気がした。

かばんのなかでスマホが震える気配を感じて、朝佳はそれを取り出す。柚葉からメッセージが届いていた。『短編賞のコンテスト用に、原稿を書いてみたの。応募前に、朝佳ちゃんに読んでもらいたくて。』朝佳は素早く指を動かし、返信する。『病院終わったところなんだ！ よかったら、明日待ち合わせしない？』柚葉からすぐさま、『ありがとうございます。』という返信とともに、デフォルメされたうさぎのスタンプが届く。柚葉のラジオネームを思い出し、朝佳は和んだ。

車は自宅の車庫前でとまる。ドアを開け外に出たら、秋の涼しさを含んだ風が、ひとすじ頬をなでていった。

翌日朝佳が緑地公園に来ると、柚葉はベンチで待っていた。そして紙の束に目を落としている。草を踏んで近づくと、柚葉が視線を上げ、「応募作」と文字が印刷されたA4用紙を朝佳に渡してくる。「あんまり自信ないんだけど、でも一生懸命に書いたつもり。」

朝佳は受け取って、ざつと目を通そうとし——途中まで読んだところで、思わず口に出していた。「ね、柚葉ちゃん。これ、声に出して読んでみてもいいかなあ？」とたん、柚葉がびくりと固まった。朝佳はその反応に驚いて「だめだったかな？」と聞き返す。柚葉が、朝佳に上目遣いをして「笑ったり、しないよね？」と確認するように聞いてきた。柚葉の口元が震えていることに朝佳は驚いて、「もちろん、笑ったりなんかしないよ！」と、大きな声でつげた。柚葉は「それなら、大丈夫。」とうなずいた。

朝佳は「じゃあ。」と言い置くと、原稿の最初に戻って、冒頭から地の文と台詞を声に出していった。地の文は落ち着いた声で、反対に台詞は

心をこめた声で。緑地には幸い人はいなかったから、誰に気兼ねすることもない。

そのままラストまで読み終え、朝佳は叫んだ。「え、このお話すごくいいじゃん！ 柚葉ちゃんがこめた想いが伝わってくるよ！」朝佳の言葉を聞いた柚葉も、心底驚いたように声を震わせた。「すごい……物語を声に出して読むだけで、世界が立ち上がるんだね。私の書いたお話が、まるでドラマみたいに聞こえちゃう。」その表情は、さつきと打つて変わって光が射したように明るい。

柚葉の言葉に、朝佳は自分でもわけがわからないままに（これだ！）と感じた。走ることができなくなつて、腐つてばかりの日々だったけど、新しく熱中できることを見つけたかもしれない。ただ、いまはまだそれを言葉にして柚葉に伝えることまではできず、朝佳は「また頭から読んでみていい？」と聞くにとどめた。柚葉が「いいよ、むしろお願いします。」と、花のつぼみが咲きほころぶように微笑む。

寄り添いあつてひとつの原稿に目を落とし、談笑する。そんな朝佳と柚葉を見下ろすように、秋めいてきた空をトンビが旋回していた。

（上田聡子『あの子の隣で待つ春は』による。）

（注）① しらがまじりの頭。 ② ここでは、ラジオ番組の進行を担当する人。

③ 親しげで楽しそうに。

④ 朝佳が関本先生に話した、最近仲良くなった同級生。

⑤ ここでは、ラジオ番組で募っている短めの文章のこと。

⑥ 見た目を変えて表現すること。 ⑦ ここでは、イラストのこと。

⑧ ラジオ番組に参加するときに用いる名前。

⑨ タカ科の鳥で、トビのこと。

問一 二重傍線(=)部㉔、㉕のひらがなを漢字に直し、㉖、㉗の漢字に読みがなをつけなさい。

問二 次のア～エの中から、波線(〰)部と同じ構成の熟語を一つ選び、記号で答えなさい。

ア 海底 イ 仰天 ウ 残留 エ 年少

問三 朝佳は、関本先生から、朝佳を見て感じ取ったことを伝えられ、傍線部1のようになった。朝佳が傍線部1のようになった、関本先生が感じ取り伝えたこととはどのようなことか。簡単に書きなさい。

問四 本文には、移りゆく風景を見た朝佳が、自分自身の心境の変化を感じたことが分かる一文がある。その一文の、最初の五字を抜き出しなさい。

問五 次のア～エの中から、傍線部2と傍線部3から分かる柚葉の心情の説明として、最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 音読を提案されたときは自分と同じ考えに驚いたが、朝佳の音読を聞いて自分の考えの正しさを確信している。

イ 音読を提案されたときは無神経な発言に怒りを感じたが、朝佳の音読を聞いて読み方の工夫に満足している。

ウ 音読を提案されたときはからかわれることを心配したが、朝佳の音読を聞いて自分の能力の高さを自慢している。

エ 音読を提案されたときは自信がなくて不安だったが、朝佳の音読を聞いて音読の効果に興奮している。

問六 柚葉の原稿を音読した朝佳は、音読に対する柚葉の言葉を聞いて、どのようなことに気づいたか。朝佳が気づいたことを、柚葉に対して再度原稿を読むことを願い出るとどめたときの朝佳の状況が分かるように、五十字程度で書きなさい。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、文章中の ① ～ ⑤ は、段落を示す番号である。(13点)

① 建築家として建築を設計するということは、いつも未来を構想し、建物を図面として描いたものを実際に工事することである。建築家は、常に時間とかかわって物事を思考しているといえる。そして、建築を想像するときに時間を切断しないで、連続させるためには、不要に建築を壊さないことが重要になってくる。建築を壊してしまうと、時間をデジタルに切断してしまい、その場所が白紙状態(タブラ・ラサ)になってしまう。なるべく建築を壊さないというのは、建築をゼロという点から考えるのではなく、過去から連続する線として考えることで、時間に幅を持たせるのである。具体的には、建築の設計のはじまりを「更地」としないで、すでにそこにあるものから思考すること。建築における撤退は、新築工事ではなく、^{注②}リノベーションの現場が主戦場になると、私は考えている。もしくは、新築であっても、リノベーション的感覚、つまり、時間に幅を持ってデザインを展開していくという姿勢が大切であると感じている。

② もちろん、新築工事はこれからも重要である。しかし、日本における新築工事のただけが本当に必要なのは、吟味して、最適なバランスをその都度みつけないといけない。いま建てられている建築が建物としての寿命を本当に全うしているかは、甚だ疑問であるといわざるを得ない。たとえば、日本における住宅の新築着工件数を考えたら、人口が減少する今、空き家がこれほどまでに増加している今、どこまで本当に

新築することが必要なのは、真摯に検討すべき課題である。

③ 建築を解体することについても、慎重に考えていかないといいない。なるべく廃棄物としてのゴミを出さないためには、本当に建築を解体する必要があるのかをきびしく検討すること。それは、建築の寿命を伸ばす可能性を見つけることでもある。新築工事は、竣工という工事の終了を意味する時間が A として存在する。この完成という点としての時間を、過去から連続と続く B の時間として捉えることができるだろうか。そして、建築デザインも、何も無い更地からスタートする C としての時間ではなく、すでにそこに建っている建築から考えていくこと。リノベーションの魅力は、すでにそれまでに経験された時間が空間化された建築を手がかりに設計をスタートできるということで、設計の根拠や必然性が増すところにある。ゼロという点からスタートするのではなく、これまで流れてきた時間に幅を持たせて流れる線として考えることによって、説得力のある豊かな建築をつくることができる。そして、リノベーションとしての設計は、きつと直線的なものではなく、円環するものとして捉えることができたなら、^{注⑥}メタボリズムの「新陳代謝する建築」に少し近づくのではないかな。^{注⑦}

④ あらゆる創造は、破壊の後にやってくる。何かをつくるためには、何かを壊さないといいない。大きな建築をつくるのに、既存の古い建築を解体して、いつも更地から考えることを見直してはどうだろうか。いうまでもなく、戦争が最大の破壊であり、一番環境に悪い。かけがえのない人命はもちろんのこと、圧倒的な破壊によって地球環境を壊している。⑤ そもそも、手付かずの自然、もしくは野生の大地というものは、日本

においてはもうほとんど残されていないと考えていいだろう。であれば、無限に成長する時代ではなく、成熟の時代へとゆつくりシフトすることが、撤退によって可能になるはずだ。

(光嶋裕介「建築における撤退の可能性について」による。)

(注) ① ここでは、考え方や仕組みの見直しなど、方向転換すること。

② ここでは、改修すること。 ③ ここでは、主要な場所のこと。

④ 完全に果たして。 ⑤ 絶えず。 ⑥ 建築理論の一つ。

⑦ 時代や用途の変化に応じて建築や都市も変化していくべきであるとする考え。

問一 二重傍線(=)部㉔の漢字に読みがなをつけ、㉕のひらがなを漢字に直しなさい。

問二 波線(〰)部ア～オの中には、品詞の分類からみて同じものがある。それは、どれとどれか。記号で答えなさい。

問三 筆者は、傍線(—)部のように、新築工事の必要性について疑問を述べている。筆者が述べている、新築工事の必要性を考えると、住宅の新築着工件数に対してふまえておくべき日本の現状を、二つ書きなさい。

問四 本文中の A と C のそれぞれに補う言葉の組み合わせとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア A 線 B 点 C 点

イ A 点 B 線 C 点

ウ A 線 B 点 C 線

エ A 点 B 線 C 線

問五 本文の 4 の段落は、文章の構成上、どのような役割を持っているか。その役割を説明したものととして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 3 の段落までの主張に反論する例をあげ、2 の段落で述べた仮説について検証している。

イ 3 の段落までとは異なる視点を示し、2 の段落で提起した問題に対する答えを導き出している。

ウ 3 の段落までの内容を補足し、5 の段落で述べる主張につなげている。

エ 5 の段落で結論を述べるため、3 の段落までの内容から仮説を立てている。

問六 筆者は、開発が進んだ日本において、撤退によってどのようなことが可能になると述べているか。建築における撤退の一つである、リノベーション的感覚とはどのような姿勢が分かるように、五十文字程度で書きなさい。

三 次の文章は、環境委員会の委員長が、昼の放送で連絡事項を伝達するためにまとめている原稿である。あなたは、環境委員会の委員長から原稿についての助言を頼まれた。この文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(9点)

学校の隣の南公園は、この辺りで最も広い公園です。公園内はいつもきれいで、気持ちよく過ごすことができます。散歩をしたり、くつろいだりする地域の方々の姿をよく見かけます。また、四季折々の花が私たちを癒やします。

先日私は、自治会長の原さんにお目にかかる機会があり、公園の清掃は、原さんたち近所のみなさんが行っていることを知りました。原さんは、秋から冬にかけては、落ち葉の量が、自分たちでは処理しきれないほど多く、困っているとおっしゃっていました。

そこで環境委員会では、みんなで落ち葉拾いをすることにしました。落ち葉拾いは、いつも公園内をきれいにしてくださいという原さんたちと行います。さまざまな場面で、私たちは、地域の方々のお世話になっています。南公園を地域の方々が利用しているところを何度も目に見ています。日ごろの感謝の気持ちを込めて、みなさんも落ち葉拾いに参加しませんか。

実施日は、十二月四日と五日です。それぞれの放課後に三十分間行います。どちらか一日の参加でも構いません。

詳しくは、各教室に掲示する案内をご覧ください。多くのみなさんの参加をお待ちしています。

問一 傍線部1を、「私たちは」を主語にした表現に直しなさい。

問二 傍線部2の敬語の説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「会う」の尊敬語で、「原さん」に対する敬意を示す表現。

イ 「会う」の尊敬語で、「聞き手」に対する敬意を示す表現。

ウ 「会う」の謙譲語で、「原さん」に対する敬意を示す表現。

エ 「会う」の謙譲語で、「聞き手」に対する敬意を示す表現。

問三 次のア～エの中から、傍線部3とほぼ同じ意味で用いられる慣用語として最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 手に余る イ 手を染める

ウ 腕が鳴る エ 腕を振るう

問四 本文中の、第三段落において、第一段落の内容と重なりがあるために、ある一文を削除したい。その一文の、最初の五字を抜き出しなさい。

問五 原稿を読んだあなたは、この放送の目的を冒頭で示したほうが聞き手が理解しやすくなると思った。本文中の①の内容をふまえ、放送の冒頭でこの放送の目的を示すのに適切な一文を考え、「環境委員会から、」の書き出しで書きなさい。

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(7点)

注① ほろかわさんせい

細川三斎は茶事の好(このみ)すぐれて、名物の茶器もあまた所持なりしとて、

茶道

ゆい緒のある 数多く持っていたというので

注② ほったかのかみまさもり

堀田加賀守 正盛の威権専(せん)なりし時、茶を好みければ、某(なながし)をして

威力と権力が増して

何とかという人に命じて

秘蔵の道具一覽(いっぴん)したきよしを申し入れたり。三斎(さんさい)諾(だく)して日を期し、

大切(たいせつ)にしまつ

一通り目を通したいこと

承知(だく)して

定めて

正盛(せいせい)を迎(むか)へ種々の馳走(ちそう)をはり、いざ道具をと物数(ぶつず)取り出(い)だしたるが、

もてなしが

多数(たすう)のもの

注③

皆(みな)武具(ぶぐ)なりける。正盛(せいせい)かねての所存(しよぜん)に違(ちが)ひ、いと不興(ふきやう)なりしかども、

前から心に思うところ

すつかり興(き)がさめたが

さあらぬふりして厚(あ)く謝(い)して歸(かへ)りぬ。後日(ごじつ)、某(なながし)参(まゐ)りていかで茶器(ちやく)を

何でもなし

感謝(かんしゃ)して帰(かへ)った

どうして

見(み)せたまはざりしと申(まを)しければ、三斎(さんさい)、いやとよ、加州(かうしや)が道具(どうぐ)見たきと

お見(み)せにならなかつたのか

いや、そうで

正盛(せいせい)

見(み)たい

いはるるよしぞ此(こ)の通りせしにあらざや。およそ武家(ぶけ)にて何(なに)の道具(どうぐ)と

おっしゃるから

したのではないが

そもそも武士(ぶし)として

ささずして単(ただ)に道具(どうぐ)とのみいふは、武具(ぶぐ)ならずして何をいふべきと

定めないで

いふだらうか、いや、いわない

工 答(こた)へしとぞ。

(松浦静山『甲子夜話』による。)

(注) ① 細川忠興。安土桃山時代から江戸時代初期の武士。

② 堀田正盛。江戸時代前期の武士。

③ よろいなどの戦いに用いる道具。

問一 二重傍線(〓)部を、現代かなづかいで書きなさい。

問二 波線(〰)部ア、エの中で、その主語に当たるものが正盛であるものを一つ選び、記号で答えなさい。

問三 正盛が傍線(――)部のように三斎に依頼したのは、三斎がどのような道具を数多く持っていたからか。三斎が数多く持っていた道具を、本文中から五字で抜き出しなさい。

問四 三斎は、正盛の思うところとは異なる行動を取っている。三斎が、正盛の思うところとは異なる行動を取ったのはなぜか。その理由を、三斎が述べている、正盛が三斎に伝えた言葉と、武士としての発言についての三斎の考えが分かるように、現代語で簡単に書きなさい。

五 あなたのクラスでは、国語の授業で、次の の中の文章が紹介された。あなたは、この文章の傍線(——)部について、どのようなことを考えるか。あなたが考えたことを、あなたがどのように考えた理由を含めて書きなさい。ただし、次の条件1、2にしたがうこと。(6点)

条件1 一マス目から書き始め、段落は設けないこと。

条件2 字数は、百五十字以上、百八十字以内とすること。

昔、動植物に詳しい友人と北海道の湿原を歩いたことがあります。湿原の木道を歩きながらその友人は水生植物や昆虫、野鳥など、湿原のもつ生物の多様性とそれらが織りなす自然景観を満喫していました。動植物についての知識の乏しい私はぼんやりと歩くだけで飽き飽きしていました。家の近くの雑草が生えている原っぱと同じようにしか見えなかったのです。

要するに、素晴らしい体験をするには豊かな知識が必要だということなのです。

(戸田智弘「15歳の人生攻略本」による。)